



湿地サミットイベント 秋の湿地へようこそを開催しました



2021年10月30日（土） 天気 晴れ 鯉ヶ廻間上池・下池周辺湿地

絶好の散策日和のもと、市民をはじめとする総勢60人で、ジブリパーク開発地周辺の湿地の生き物を見学をしました。日々、長久手の湿地保全に取り組む水岡恵子さん（長久手湿地保全の会代表）から、保全作業のリアルを聞いたり、植物のスペシャリスト増田理子先生（名古屋工業大学教授）から、豊かな生物の棲み処である湿地を保全する重要性について学びました。

1 今、世界的に注目される湿地。 実は長久手にも貴重な湿地があります！

長久手市の「クテ」は、「湿地」という意味。「湧水湿地」という、小石がゴロゴロしていて常に水が湧き出す、斜面にできた湿地があります。SDGs(持続可能な開発目標)でも、湿地の保全は重要視されています。次世代へ湿地を残すための取り組みが紹介されました。

2 湿地には固有の生き物がたくさん棲んでいます！

長久手湿地保全の会代表の水岡さんからのお話では、保全活動作業によって湿地が再生される様子や、湿地に棲む生き物の様子が鮮やかな写真を交えて紹介されました。



会場は愛・地球博記念公園地球市民交流センターの体験学習室。40人以上の方が、熱心にお話を聞きました。

3 湿地で生きていくのは超過酷？！

湿地には栄養分が少なく、常に厳しい環境になっていて、ストレス耐性のある植物だけが生きていくことができます、と名古屋工業大学教授の増田先生。「食虫植物」といって、昆虫を溶かして栄養分にして吸収する戦略をとる生き物も。湿地ができる地形の特徴などについても学びました。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
持続可能な開発目標17の目標



栄養が無く、酸性で、水浸しの環境で、虫からも栄養を取り、命をつないでいます。

💡 湿地がなくなると、どうしてダメなの？

人間にとって、直接的な影響はないかもしれませんが、ある生き物が弱くなった際、それを補う生態系の機能が失われてしまうかもしれません。単一な生態系しか存在しなかった場合、ある生き物がいなくなると、他の種も全滅する可能性が高まり、結果的に生物多様性が減ってしまう、との増田先生からの解説でした。ご質問、ありがとうございました！



4 現地の観察に 出発！

長久手湿地保全の会の高村さんから、観察ルートや注意事項について案内がありました。

5班に分かれて、湿地保全の会が班ごとに案内します。

さて、現地はどんな様子でしょうか？
裏面へ



5 湿地の生き物を観察しました！

東海地方特有の植物を観察し、写真を撮り、湿地の理解を深めました。



シラタマホシクサ
東海地方固有の“金平糖”



ヌマガヤ
嫌われることもあるけど
実は重要な注目種



スイラン
ランではなくキクの仲間



6 皆さんの湿地への“おもい”集めました

さいごに、参加した方々に、これから長久手の湿地がどうなったらよいか、コメントを書いて貼ってもらいました。出来上がった「長久手おもいの湿地」ボードは、今後様々な場面で掲示予定です。



～番外編～

開催までの地道な努力がありました

今回は、鯉ヶ廻間上池・下池周辺湿地での初めての見学会でした。参加する皆さんに安全に楽しんでもらうため、道が無いところに散策道を作り出したり、継続的な草刈りやごみ拾いしたりなど、長久手湿地保全の会が一手に整備を担いました。お疲れさまでした！



長久手湿地保全の会が、危険なものが落ちていないか、ごみ拾いする様子。

おわりに

アンケートからは「湿地の大切さが分かった」との声を多数いただきました。長久手市環境課では、これからも、多種多様な生き物と私たち人間が共に生きていくことがステキだなと感じる機会をお届けします。



生物多様性を守るために わたしたちが今日からできること。

湿地の保全だけでなく、一人ひとりが生物多様性との関わりを日常の暮らしの中でとらえ、実感し、身近なところから行動することが、生物多様性を守るための第一歩です。今回のようなイベントに参加することも、行動の一つです。

▽UNDB-J
サイトへ

行動の中からできることを選んで、あなたの「MY行動宣言」としてインターネットで宣言します。詳細はQRコードから！

